



来場者の意見を聞く細野環境相(左)

|| 22日午後、御殿場市印野の富士山樹空の森

# 「登録へ大きな年」

## 細野環境相 地元市民と意見交換

御殿場



富士山を産に  
世界遺産

「富士山ミニシンポジウム」に出席し、「富士山」の文化遺産登録に向け今年は非常に大きな年になる」と述べ、活動団体の関係者に協力を求めた。

国内の申請手続きは最終段階を迎え、政府は今月中に国連教育科学文化機関(ユネスコ)に推薦書を提出する。夏には諮問機関の国際記念物遺跡会議(イコモス)が現地調査に入り、来年5月の勧告を経て、6〜7月には登録の可否が決まる見込み。環境省の渡辺綱男自然環境局長が動向を説明し、イコモスの審査で「地元住民の自然

に対する意識の高さや、県境を越えた圏域の一体性が重要な評価ポイントになる」と強調した。

同市、裾野市の両市民協議会などから約40人が来場し、希少な巨木の保護や写真展への協力を求めた。細野環境相は「大事な1年間を大臣の立場で努力したい。関係地域だけでなく、東京や全国も巻き込む運動が必要」との認識を語った。

細野豪志環境相(衆院静岡5区)は22日、御殿場市印野の富士山樹空の森で開かれた